資料1



１　議事

　○　佐賀市地域防災計画の修正について

２　講演

　○　新しい防災気象情報について（佐賀地方気象台）

３　報告事項

　○　令和７年度の取組について

　○　令和８年度の取組について

１　議事

○　佐賀市地域防災計画の修正について

議事：佐賀市地域防災計画の修正について

～頻発する林野火災への対応～

→林野火災に関する注意報、警報の新設

○林野火災編の見直し

◆住民への火の取り扱いの啓発活動を推進

山火事予防運動等の機会や各種媒体を活用した火の取り扱いや不始末による出火の危険性等の周知により、住民等への予防思想の普及啓発及び入山者等に対する失火防止対策の推進に努める。

【主な改正内容】

１　**『林野火災に関する注意報』発令の新設**
・空気が乾燥し、雨が長く降らないなど、山火事が起こりやすい状態になった時、『林野火災注意報』を発令します。

２　**『林野火災に関する警報』発令の新設**
・注意報発令時または発令中に、強風注意報が発表されている場合には、火災危険性が高まるため、『林野火災警報』を発令します。

３　**『発令対象期間』について**
・空気が乾燥しやすく、山火事が発生しやすい１月～５月の期間を対象とします。

４　**『林野火災警報』発令中おける『火の使用制限』について**
・警報が発令中は、山間部及びその周辺（※１指定区域）の屋外でたき火、火入れなどは禁止となります。

５　**発令時のお知らせ**
『林野火災注意報』や『林野火災警報』が発令された時には、『防災ネットあんあん』や『各市町のアプリ』などでお知らせします。

議事：佐賀市地域防災計画の修正について

～令和６年能登半島地震を踏まえて（激甚化する自然災害への対応）～

→被災状況や支援の情報を迅速に共有

○防災DXの加速

◆新総合防災情報システム(SOBO-WEB)や新物資システム(B-PLo)の利活用促進、研修・訓練の実施

・国のクラウド型被災者支援システム等の被災者支援業務を支援するシステムを活用するなど、当該業務の迅速化・効率化を積極的に検討する。

・災害時に新総合防災情報システム（SOBO-WEB）や新物資システム(B-PLo)等の各種防災関連システムの利活用の促進や操作習熟を図るため、研修や訓練の実施に努める。



議事：佐賀市地域防災計画の修正について

◆防災IoTシステムによる被災状況の迅速な共有

・天候状況を勘案しながら、必要に応じ、航空機、無人航空機、高所監視カメラ等による目視、撮影等による情報収集を行うとともに、収集した画像情報について、防災IoTシステム等を活用し、関係機関間での迅速な共有に努める。



議事：佐賀市地域防災計画の修正について

～令和６年能登半島地震を踏まえて（被災者支援におけるボランティア等との協働）～

→顔の見える関係を築き、スムーズな連携へ

○被災者支援の充実

◆NPO、災害ボランティアとの平時からの連携、研修・訓練の推進

国が整備した被災者援護登録協力団体のデータベースを基に、登録団体との平時からの連携強化に努める。

三者連携会議の様子 ⇨



議事：佐賀市地域防災計画の修正について

～令和６年能登半島地震を踏まえて（災害対応力の底上げ）～

→どこに、何が、どれくらいあるのか、わかるように

◆物資の備蓄状況の公表

物資の備蓄状況については、年に１回、広く住民に公表するものとする。
この際、避難生活に必要な物資の備蓄については、想定し得る最大規模の災害における想定避難者数と、それに対して必要となる備蓄量を佐賀市防災備蓄計画において推計し、推計した必要備畜量の確保を目指すよう努めるものとする。







議事：佐賀市地域防災計画の修正について

新しい防災気象情報について（令和８年５月２９日～）

- 防災気象情報（河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮）を５段階の警戒レベルにあわせて発表します。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル４相当の情報として危険警報を新設します**。
- **情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表します**。（例：レベル４大雨危険警報 等）

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	河川氾濫 １級河川などの大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや土石流	高潮 海水面の上昇や波の打上げによる浸水	（警戒レベルごとの）住民がとるべき行動
警戒レベル５相当	レベル５ 氾濫特別警報	レベル５ 大雨特別警報	レベル５ 土砂災害特別警報	レベル５ 高潮特別警報	命の危険　直ちに安全確保！
＜警戒レベル４までに危険な場所から かならず避難！＞					
警戒レベル４相当	レベル４ 氾濫危険警報	レベル４ 大雨危険警報	レベル４ 土砂災害危険警報	レベル４ 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル３相当	レベル３ 氾濫警報	レベル３ 大雨警報	レベル３ 土砂災害警報	レベル３ 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
警戒レベル２	レベル２ 氾濫注意報	レベル２ 大雨注意報	レベル２ 土砂災害注意報	レベル２ 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
警戒レベル１	早期注意情報				災害への心構えを高める

２　講演

○　新しい防災気象情報について

（佐賀地方気象台）

佐賀地方気象台
Saga Meteorological Office
Japan Meteorological Agency

気象台　説明資料

佐賀市防災会議

1．向こう３か月の天候の見通し
2．新しい防災気象情報
3．キキクルの紹介＆使い方

令和８年５月26日
佐賀地方気象台

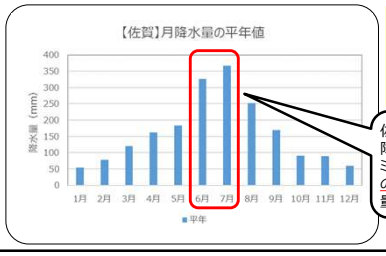
向こう３か月の天候の見通し（5月19日発表）

佐賀地方気象台
Saga Meteorological Office
Japan Meteorological Agency

６月	平年と同様に曇りや雨の日が多い
７月	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い 期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い
８月	平年と同様に晴れの日が多い

近年、梅雨時期の大雨の発生頻度が増加しています。

	6月	7月	8月	6～8月
	低 並 高（%）	低 並 高（%）	低 並 高（%）	低 並 高（%）
気温	高い 10：30：**60**	高い 10：30：**60**	高い 10：30：**60**	高い 10：20：**70**
降水量	少 並 多（%）	少 並 多（%）	少 並 多（%）	少 並 多（%）
	ほぼ平年並 30：30：**40**	ほぼ平年並 30：**40**：30	ほぼ平年並 30：**40**：30	ほぼ平年並 30：30：**40**



佐賀の6月・7月合計の降水量の平年値は約690ミリ。年降水量の1/3がこの時期に降る。（年降水量約1,950ミリ）

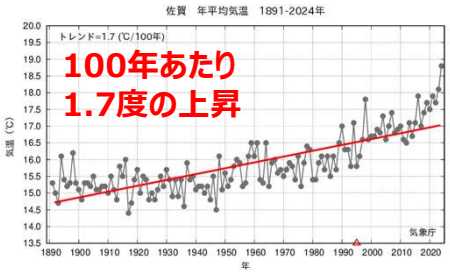
※5月14日発表の1か月予報（5/16～6/15）では、
・気温は高い見込みです。
・降水量は平年並か多い見込みです。
・日照時間は平年並か少ない見込みです。

梅雨入り：
平年6月 4日頃、昨年5月17日頃
梅雨明け：
平年7月19日頃、昨年6月27日頃

佐賀県の気候変動

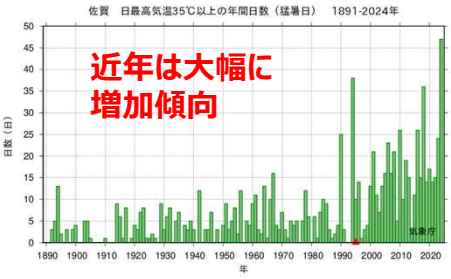
佐賀地方気象台
ga Meteorological Office
Japan Meteorological Agency

年平均気温



100年あたり
1.7度の上昇

猛暑日の年間日数



近年は大幅に
増加傾向

自然災害及び熱中症による死亡者数

	自然災害	熱中症
2020年	128人	1528人
2021年	150人	755人
2022年	159人	1477人
2023年	80人	1651人
2024年	607人	2160人

出典：令和7年防災白書及び人口動態統計

- **熱中症警戒アラートに留意**
- **最高気温40度以上の日「酷暑日」も誕生**
- **気候に関する各種情報**
  気候変動2025
  （5年ごとに更新）

現行の防災気象情報と対応する行動

佐賀地方気象台
ga Meteorological Office
Japan Meteorological Agency



令和8年5月29日から新しくなる防災気象情報

佐賀地方気象台
ga Meteorological Office
Japan Meteorological Agency

- 防災気象情報（河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮）を５段階の警戒レベルにあわせて発表します。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル４相当の情報として危険警報を新設します**。
- **情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表します**。（例：レベル４大雨危険警報 等）

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	河川氾濫 1級河川などの大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや土石流	高潮 海水面の上昇や波の打上げによる浸水	（警戒レベルごとの）住民がとるべき行動
警戒レベル５相当	レベル５ 氾濫特別警報	レベル５ 大雨特別警報	レベル５ 土砂災害特別警報	レベル５ 高潮特別警報	命の危険　直ちに安全確保！
＜警戒レベル４までに危険な場所から かならず避難！＞					
警戒レベル４相当	レベル４ 氾濫危険警報	レベル４ 大雨危険警報	レベル４ 土砂災害危険警報	レベル４ 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル３相当	レベル３ 氾濫警報	レベル３ 大雨警報	レベル３ 土砂災害警報	レベル３ 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
警戒レベル２	レベル２ 氾濫注意報	レベル２ 大雨注意報	レベル２ 土砂災害注意報	レベル２ 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
警戒レベル１	早期注意情報				災害への心構えを高める

早期注意情報（警報級の可能性）の主な変更点

佐賀地方気象台
ga Meteorological Office
Japan Meteorological Agency

- **警戒レベル１の早期注意情報は、大雨や高潮等の警報級の現象が５日先までに予想されている場合に、その可能性を［中］［高］の２段階で発表する情報です。**
- **令和８年5月29日からは、これまで大雨に含めていた土砂災害の警報級の可能性を切り分けて発表します。**
- **さらに、明後日までを対象とした情報の時間幅を次のとおり変更します。**
  - **明日までは、12時間または18時間の時間幅で発表していたものを6時間の幅で発表**
  - **明後日については、１日の時間幅であったものを午前・午後に分けて発表**

(現行)

	1日	2日				3日	4日	5日	6日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24				
大雨	［中］	［高］				［中］	－	－	－

(新体系)

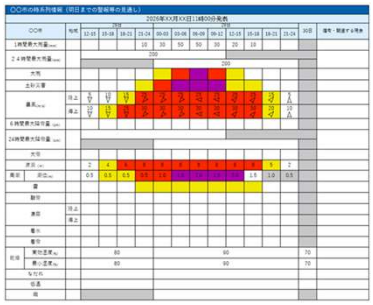
	1日	2日				3日		4日	5日	6日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24			
大雨	－	［中］	［高］	［中］	－	－	－	－	－	－
土砂災害	－	［中］	［高］	［高］	［中］	［中］	－			

早期注意情報をうまく活用して災害への心構えを！

時系列情報（明日までの警報等の見通し）

佐賀地方気象台
ga Meteorological Office
Japan Meteorological Agency

- 新しい防災気象情報とともに、新たに「時系列情報（明日までの警報等の見通し）」を提供
- 時系列情報は、警報・注意報に先立って気象の見通しを二次細分区単位(＋山地等の分割地域)で提供する予測情報
  - 警報・注意報の発表に関わらず、時系列情報の対象とする全要素※について、
    翌日までの３時間毎または日毎の気象状況の見通しを
    毎日４回（05時、11時、17時、23時）提供
    ※対象要素：
    大雨、土砂災害、風、波、高潮、雷、乾燥、大雪、融雪、濃霧、着氷、着雪、なだれ、低温、霜
    （下線部の要素は日毎の見通しを提示）
  - 気象庁ホームページでは常時表示、定期的に更新（上記の４回）
  - 定期的な更新以外にも、当初の想定から今後の見通しが大きく変わった場合などには、必要に応じて臨時に修正情報を発表（気象庁ホームページの時系列情報も更新）



時系列情報のイメージ

災害切迫	特別警報基準を超えると予想される時間帯
危険	危険警報基準を超えると予想される時間帯(土砂災害、高潮については、危険警報発表の可能性がある時間帯)
警戒	警報基準を超えると予想される時間帯(土砂災害、高潮については、警報発表の可能性がある時間帯)
注意	注意報基準を超えると予想される時間帯(高潮については、注意報発表の可能性がある時間帯)

気象防災速報(線状降水帯直前予測）の概要

佐賀地方気象台
ga Meteorological Office
Japan Meteorological Agency

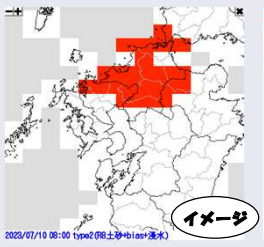
気象防災速報(線状降水帯直前予測)

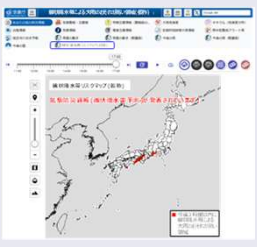
- 今後３時間以内に、線状降水帯の発生により非常に激しい雨が降り続く可能性が高まった場合に発表
- 一次細分区域を対象に発表

〇〇県気象防災速報（線状降水帯直前予測）　第１号
令和〇年〇月〇日〇〇時〇〇分　〇〇気象台発表
（見出し）
〇〇県〇〇（一次細分区域）では、今後３時間以内に線状降水帯が発生し、非常に激しい雨が同じ場所で降り続く可能性が高まっています。命に危険が及ぶ災害発生の危険度が急激に高まるおそれがあります。

線状降水帯予測マップ

- 文章情報を補足するものとして、最大３時間先までで線状降水帯による大雨のおそれがある**領域をメッシュ情報で提供する。**
  - **文章情報の対象地域にあっては、線状降水帯発生のおそれがある領域を確認し、防災対応につなげていただく。**
  - **文章情報が発表されていなくとも、メッシュ表示されている場合は線状降水帯発生のおそれがあることから、今後の防災気象情報に留意いただく。**



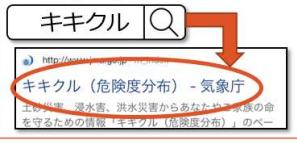


大雨警報が発表されたら、キキクルで危険度を確認しましょう！

佐賀地方気象台
ga Meteorological Office
Meteorological Agency

キキクルの使い方

①インターネットで「キキクル」と検索し、「キキクル（危険度分布）-気象庁」を選択します。
スマートフォンは右下のQRコードを読み込みます。



キキクル
（気象庁ホームページ）

②見たい場所へ地図を移動します。

位置情報をONにすると自動で自分のいる場所が中心に表示されます。
※GPS機能と位置情報利用の許可が必要です。



③キキクルは3種類あり、土砂災害、浸水害、洪水災害の危険度が分かります。
丸いアイコンを押してそれぞれ切り替えます。

土砂キキクル
浸水キキクル
洪水キキクル



④色が濃くなるほど危険が高まります。
紫色までに安全な場所へ避難しましょう。

高 危険度 低

- 災害切迫 【警戒レベル5相当】
- 危険 【警戒レベル4相当】
- 警戒 【警戒レベル3相当】
- 注意 【警戒レベル2相当】
- 今後の情報等に留意
（洪水キキクルの場合は水色）

最後に

佐賀地方気象台
ga Meteorological Office
Japan Meteorological Agency

本日のポイント

- **これまでの注意報や警報に「レベル●●」が付記される**
  - 必要な避難行動が何かが、わかりやすくなります
- **レベル4危険警報が新設される**
  - 避難指示に結び付く重要な情報です
  - これまでの土砂災害警戒情報などはこちらに変更されます
- **レベル4危険警報やレベル3警報が発表されたらキキクルで確認**
  - どこが危険なのか、今いる場所が対象なのか、確認してください

※新たな防災気象情報に
関する詳細はこちら
気象庁HP特設ページ →→→

3　報告事項

○　令和７年度の取組について

○　令和８年度の取組について

報告事項：令和７年度の取組について

防災フェア

開催日　令和8年2月15日（日）

会　場　ミズ・ウェルビー ホール（佐賀市文化会館）

主な内容

- 高荷智也さんの講演
- SONPO ダイレクト様の講演
- やすこさんの防災トーク
- スタンプラリー

参加者数（概数）

ホールイベント	広場イベント	スタンプラリー参加者
約500人	約600人	約220人

アンケート結果（回答者 約300名）

- 災害備蓄品を準備しようと思う　約95%
- 今後、備蓄や家具の固定など何らかの備えをしようと思う　約90%

【ホール】

備蓄の展示・販売



【広場】

災害時に働く車の展示



報告事項：令和７年度の取組について

◆企業との協定締結

スズキ、日産、大坪製菓
大東建託等と防災協定締結
（車両や物資の提供）

現在　38社



◆ 寺院施設等の災害時支援協力



26の仏教会及び宗派と災害時等における被災者支援活動の協力協定を締結

◆ 避難所開設運営業務

（赤松、北川副）+新たに２つの自主防災組織と協働避難所運営協定を締結



金立町

蓮池町



◆ハザードマップの整備



新たに富士町と
松梅地区（大和町）の
洪水ハザードマップを
作成

報告事項：令和７年度の取組について

◆ 防災関連システム等の整備（防災ＤＸの推進）

市民向け機能

① 災害・防災ミニアプリ



防災情報への入口を整備

検索時間
2分→1分/件

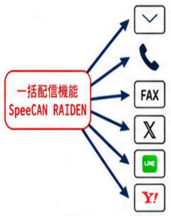
② 避難所手続の簡素化



デジタル市民証等による受付を実現

受付時間
10分→2分/人

③ さがんメール・一括配信



かんたん登録・一括配信・多言語配信に対応

発信作業
60分→30分/件

情報共有機能

④ 災害情報共有（リスクロ等）



市民投稿・地図共有・閲覧機能を整備

情報共有手段を拡充

⑤ 被害・被災情報の集約・共有

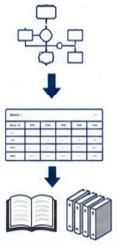


通報・入電・現地確認・市民投稿を集約

デジタル基盤を整備

本部運営機能

⑥ 災害対応工程管理機能（BOSS）



工程管理の見える化とマニュアル参照を実現

対応時間
24時間→12時間

報告事項：令和７年度の取組について

◎災害防災ミニアプリのリニューアル ～いつも手元に防災情報を～

平常時



new **避難所情報**
ハザードマップ

○避難所配置情報
○各種ハザードマップ
・土砂災害警戒区域
・津波浸水想定区域
（ハザードンＷｅｂ）



new **防災学習コンテンツ**



○LINEヤフー㈱提供コンテンツ
○避難シミュレーション
○児童・生徒向け学習アプリ
○災害に関する知識や備え

災害時



new **避難情報内容**

「○○地区の一部」
⇒単位自治会レベルで表示

リニューアル **災害情報**

○浸水状況ＭＡＰ
○避難所開設、混雑情報等
（ハザードンＷｅｂ）

new **災害情報共有**

市民投稿・共有型の災害マップ
（リスクロ）

デジタル市民証

○避難所チェックイン

気象庁（外部リンク）

防災カメラ

報告事項：令和７年度の取組について

◎避難所手続きの簡素化 ～避難所へ「かんたんチェックイン」～

避難所チェックイン

スマホ・携帯さえあれば簡単にチェックインが可能

デジタル市民証を提示

市民証を避難所でスキャンしてもらう。



new **自動連携**
（ＡＰＩ連携）

new **ＱＲコード読取り**



【必須項目】
・氏名、生年月日等
・電話番号、住所等
【任意項目】
・車両ナンバー
・持病

登録申請書に記入



自動連携

職員がシステムに入力

名称	開設状況	混雑状況	世帯数	避難者数
赤松公民館	未開設	空き	0	0人 (男 0, 女 0, その他 0)
赤松小学校	未開設	空き	0	0人 (男 0, 女 0, その他 0)

new **避難者名簿をシステム化し一括管理が可能に**

報告事項：令和７年度の取組について

◆ 防災に関する消防団の取り組み

水防訓練（令和7年5月）

情報共有
さがんメールによる情報配信
団員参加の可否把握

水防工法等の取得
土のう作成・ロープワーク
排水ポンプ操作

救難用ボートの組立
ＦＲＰボート・ゴムボートの
組立訓練

林野火災対応訓練（令和7年9月）

消防局等との合同訓練
佐賀広域消防局
他団体による参加者 約200名
消防局　他団体

遠距離中継送水訓練
水利が少ない山間部での
複数車両を繋いだ送水

ミキサー車による給水
ミキサー車が運搬した水を
消防用水として活用

関係装備や設備の強化

関係装備の配備
防火水槽等の設置による
災害対応力の強化


救難用ボート


ジェットシューター


山間部への防火水槽設置

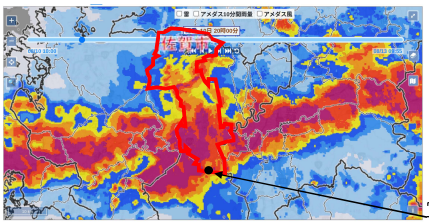
実践力向上による

地域防災力の底上げ

報告事項：令和７年度の取組について

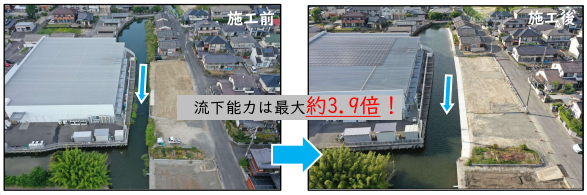
◆ 令和7年度の振返り

令和７年８月の九州北部豪雨
（８月９日～８月１１日）

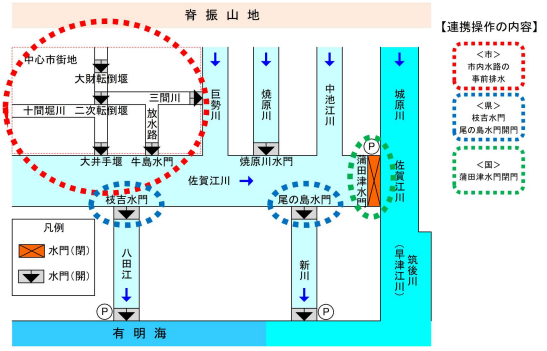


雨雲レーダー　8月10日　20時

ハード対策の推進
（準用河川地蔵川）



佐賀江川排水関連施設の連携操作



「佐賀市排水対策基本計画」第2回改訂版
R8.3策定

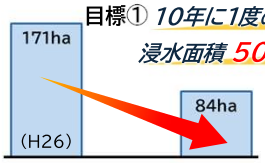
観点として
「気候変動への対応」と「多様な主体による流域治水」

報告事項：令和８年度の取組について

◆ 気候変動に対応した浸水対策

排水対策基本計画 R8.3改訂

目標① 10年に1度の大雨 浸水面積 50%減



【追加】目標② 県都として都市機能への影響を最小限に抑える



佐賀駅周辺の公共用地などで雨水を貯留（約1.4万㎥）

市内平野部全域に

溜める対策 を強化します！

新規 佐賀城お濠 常設ポンプ 設置



降水予想に基づき、迅速に・柔軟に強制排水

事前排水 60,000㎥ ＋ ポンプ活用 9,000㎥
＝ 69,000㎥【貯留量｜見込】
（25mプール 約230杯分）



排水ポンプ車を活用した強制排水

新規 高木瀬西調整池 掘下げ



既存調整池を掘下げて貯留容量を拡大

新規 雨水タンク 設置



雨水流出を抑制

さらに！ 新規 スマホを活用した樋門の遠隔操作





安全で迅速な操作で排水時間を拡大

報告事項：令和８年度の取組について

◆ 防災備蓄に関する取組　（佐賀市防災備蓄計画：R8.4.1更新）

佐賀市防災備蓄計画の変更点

備蓄目標の拡大

想定避難者数：11,270人

備蓄目標：公的備蓄 1日分 ➡ 市全体で 3日分以上

年1回以上 備蓄数量を公表

品目の見直し

- A 食料：惨事ストレス等に対応した食料の備蓄（液体・半固形・固形食）
- B ミルク類：液体ミルクを明記（粉ミルク＋液体ミルク）
- C 感染対策：マスク・手指消毒液を備蓄目標に追加（マスク・手指消毒液）

多層の備えが連携して都市全体を支える

身近な備え

1. 個人・家庭：自分と家族の生活を止めない備え
2. 地域・自主防災組織：近くにある共助の備え
3. 企業・事業所：従業員・利用者・地域を支える備え
4. 流通備蓄：平時の物流・在庫を災害時に活用する備え
5. 公的備蓄：発災直後の空白、要配慮者、避難所運営を補完する備え

広域・公的な備え

都市全体が一つの備蓄システムとして機能

考え方のポイント

- 備蓄は一箇所に集中させるより、各層が分担した方が効率的
- 行政の公的備蓄は、都市全体の備えを支える補完機能
- 多層化により、災害時の途絶・不足・偏りに強い体制を構築

代表的な数量変化

食料	飲料水	トイレ消耗品
37,105食 → 99,513食	11,595L → 101,430L	57,975セット → 169,050セット

新物資システム（B-PLo）との連携

1. 佐賀市では防災備蓄品の管理に在庫管理システムを使用
2. 数量の即時共有が可能
3. システムファイルを変換し、国システムへデータ書き込み
4. 月初に国システムを更新し、市の在庫状況と整合

市の在庫管理 ➡ ファイル変換 ➡ B-PLo／国システム更新